



今年 8 月に行った腹腔鏡手術の指導



今年 9 月、高知大附属病院で研修を受けるエドワルダ氏

## ブラジル医療支援と広がるロータリーの輪

高知南 R C 財団委員長 戸田 明

### ブラジル医療支援の要請を受けて

当クラブでは高知大学医学部（以下、高知大）と連携し、ブラジル・南マットグロッソ州への高度医療の普及と環境改善に取り組んでいます。高知大から消化器内科、外科の医師たちを派遣し、3年間で100人の現地のベテラン、中堅医師たちに内視鏡技術の研修を施し、その中から10人の指導できる医師を養成することで、高度医療が行える医師をさらに増やしていく計画です。引いては州民250万人の消化器関連の健康に寄与すると考えての事業です。

きっかけは3年前、高知大の菅沼成文教授らから当クラブにブラジル医療支援の相談が寄せられたことです。高知大は2012年に南マットグロッソ連邦大学と協定を締結しており、現地の医療の現状を危惧していたのです。しかし、私たちは当初、ロータリーとして何をどのように支援できるのかが分かりませんでした。これを機に高知大とクラブ有志による勉強会が不定期に行われるようになりました。そうして着実に事業に向けた準備を進める中、現地の第4470地区、カンポグランジ大学・ロータリークラブ（RC）との関係を築き、内視鏡による高度医療の普及のための職業研修チーム（VTT）プロジェクトを立ち上げることになりました。

### ブラジルの現状とその打開策を求めて

ブラジルは近年、リオ五輪、サッカーワールドカップ開催に伴う巨額投資で財政難に陥り、統一保健医療システム（SUS）という国民皆保険がありながら機能を果たしておらず、市民に十分な医療が提供されていません。だからといって、無料診療を行うだけでは、一時的な処置であって根本的な医療の改善にはつながりません。そこで、われわれはブラジルには内視鏡による医療が普及していないことに大きな問題が潜んでいることに着目。高度医療が行える中核病院と初期診療を行う診療所の役割のすみ分けを図り、設備投資や人材など経営上の投資効率の改善を促すことに注力することにしました。現地には日本では今や当たり前となっている内視鏡による早期での胃がん発見や腫瘍の切除、患者の体に負担の少ない腹腔鏡手術ができる医師がいません。何よりも研修の指導ができる医師と、受けられる施設がないことが普及しない大きな要因となっています。

### 近道はなく、一歩ずつ着実に前進

今年1月6～15日、第1回のVTTを派遣し、消化器内科の研修を実施。具体的には内視鏡による早期胃がん発見のための実技研修を行いました。



第2回派遣は8月4～10日、現地で腹腔鏡手術の実技指導を行いました。この時には、高知大附属病院がん治療センター長の小林道也教授を中心に腹腔鏡を使った大腸がん手術を2回実演し、無事成功。さらに小林教授らによるシンポジウムも開催しました。

当クラブではこれらV T T派遣のため、旅費や医療機器の購入に充てる資金の調達をサポート。また、現地で1～2回、短期間の研修を行っただけでは優秀な医師の養成などできません。そこで、高知大に現地の医師を受け入れ、研修を行っています。

第1回の研修を受講した州立病院内視鏡部チーフのエドワルダ・テベット医師は、8月14日～9月7日、高知大附属病院で、内視鏡を使った粘膜下層剥離術を学びました。第2回研修を受講した2人の大学病院医師は来年3月、同じく腹腔鏡手術を学びたいと要望しており、彼らは技術の習得に非常に熱心であると気付かされました。

高度医療技術は短期間で身に付くものではありません。少なくとも50症例は経験してもらいたいところですが、積極的な医師たちが多いのであれば、私たちの掲げた10人の指導的立場の医師の養成は決して難しいものではないと実感しています。こちらからブラジルを訪れた際には前回の受講者たちのフォローアップを同時に行っており、そのことで研修後の状況を把握し、新たな課題にも取り組むことができます。

## 将来への展望と、事業によるもう一つの成果

将来的には、同州からブラジル全土へ、南米全体へと日本の内視鏡技術が伝授されていくよう願っています。南マットグロッソ州は南米大陸のほぼ中心に位置し、ブラジルはほとんどの南米諸国と国境を接しています。南米諸国の医師や学生たちが、いつでも高度医療を学べるような研修病院の設立にまで発展させることが理想的です。そのためには一歩一歩、多くの医師への研修機会の提供、地域病院のネットワーク構築、行政保健局との関係構築も行っていかなければなりません。私たちクラブだけでは到底対応できない規模となれば、地区内外のクラブとの連携協力も必要になってくるかもしれません。

なお、当クラブと高知大との関係を築いた菅沼教授はロータリーの理念に感銘を受け、昨年秋に当クラブに入会し、現在はV T Tチームリーダーを務めています。そして、ブラジルでお世話になった日本人で、医学書の翻訳などを行っている森部貴雄氏も同じく、今春、カンポグランジ大学R Cに入会しました。プロジェクトが結ぶ縁でロータリーの輪がますます広がりを見せています。

3年前まで、当クラブの会員数は50人程度でしたが、現在は80人を超え、活気に満ちあふれています。これも、活発な奉仕活動が生んだ一つの成果だと思っています。

(第2670地区 高知県)

### ブラジル

南アメリカ東部にある連邦共和国。首都ブラジリア。面積は日本の約22.5倍で、人口約2億900万人。主要産業は製造業、鉱業、農牧業(砂糖、オレンジ、コーヒーなど)。



左から高知大の前田広道氏、岡本健氏、菅沼成文氏(高知南R C)、小林道也氏、戸田明氏(高知南R C)、森部貴雄氏(カンポグランジ大学R C)